

【第9回仙台スポーツリレートーク】報告



2011年7月29日(金) 19時～21時
仙台市産業・情報プラザ セミナールーム1B
参加者 15名
テーマ 「仙台・宮城スポーツの今
～ 障害とスポーツ」
スペシャルオリンピックス日本・宮城 理事
佐藤 田鶴子 氏

自己紹介

こんにちは私は佐藤田鶴子といます。長く教員をやってきましたスペシャルオリンピックスとの関わりは14年ほどになります。私にとっては「スポーツとは何ぞや」を考えるきっかけになりましたし、ボランティアをやりながら障害のことを学ぶことが出来て非常にプラスになったと思います。皆さまも同じスポーツのボランティアということで本日はぜひよろしくお願いいたします。

障害について

「障害」という字は本来「障碍」とも書き、ものごとをやることをさまたげることをいいます。しかし、「碍」という字が常用漢字になかったことから「害」という漢字を使いましたが「がい」をひらがなでかく人もあります。スペシャルオリンピックスでは活動している人をアスリートといますが、障害の中でも知的障害の方々の活動になります。大切なのは障害について私たちが理解することです。

世界保健機構(WHO)では、健康のことを「精神的、身体的、社会的に良好な状態」と規定していますが、さて皆さん自身はどうですか。(参加者中4～5名が手をあげる)

すばらしいですね、スポーツ少年団の指導者研修会などで質問すると100人の中で手が挙がるのは2～3人です。社会的に健康とは「社会の中でルールと役割を守り、仲良く生活している」をさし、健康とはトータルで良好な状態といえます。さて「スペシャルオリンピックスでは障害はひとつの個性としてとらえます」、人間は必ず不得意なところがありますが、適切な助けがあればうまくいくことが多いのです。ハードの部分でカバー出来る事もありますが(バリアフリー建築などです。)ソフトの部分のちょっとした手助けでは手話や音のする信号などがあります。人間は誰しも得意なものはやりやすく、不得意なものはやりにくいのです。たとえば人見知りなどもそうです。知的障害とは知的発達障害ともいわれ知的活動がやりにくいことをいいます。この知的活動は大脳皮質を中心とした脳で行われ、大脳皮質は神経細胞と発達する神経線維からなりたっています。成長とともにできなかったことが出来るようになるのは神経回路が大切といわれています。アスリートは非常に個性的で得意・不得意がはっきりしていていくつかのタイプにわかれます。顔立ちが似て性格的に人懐っこいダウン症や、相手のことを想像することができなくてコミュニケーションが不得意な自閉症など、知的障害を持つ人は、全人口の3%といわれています。

スポーツとは

みなさん、スポーツとレクリエーションの違いはおわかりでしょうか。まずスポーツには必ず勝敗があります。また、そのためにルールに基づいた公平な競い合いが大事になります。そして全力で競い合うためには継続した練習が必要です。障害者がスポーツをする目的は健常者と同じです。余暇の楽しみのひとつとして生活の質(QOL)を高めることにあります。スポーツを見て応援したり、おしゃべりやいい汗

をかく楽しみのためにスポーツを行う初步の段階から、継続して練習し、上達することで目標設定が生まれ、達成することで充実感や達成感が生まれます。勝てばまわりがほめてくれる、そのことがうれしかったり、負ければくやしいという感情が少しずつ分かってきます。この、感情の発露も、大きな進歩です。また、教育的な効果として、多くのことを学びます。順番に並ぶことや数を数える事、まっすぐに走ること、ルールを憶えること、会場まで自分でゆくことなどです。リハビリテーションとしては自分の不得意なところを克服したり、チームワークのためのコミュニケーションや社会生活のルールを学びます。アスリートにさまざまな効果をもたらします。

スポーツ活動に必要なものはなんでしょう。まず種目の設定ですがこれは一般とあまり変わりません。次に練習をする場、そして競技会が必要です。それぞれに場所・その競技を理解している相手や仲間、経済力なども必要でこうしたものをそろえることはなかなか大変なことです。



障害者スポーツの経緯

パラリンピックの原点はリハビリのスポーツであり、その後競技として発展してきました。日本では1964年の東京オリンピックから注目されてきました。デフリンピックというものもありこれは聴覚障害の方々のための大会です。そして知的障害者のためのスペシャルオリンピックがあり、14歳から19歳の障害のある青少年のためのアジアユースパラリンピックというものもあります。課題は障害者スポーツ指導者の養成です。

(さまざまな大会の様子などをまとめた15分ほどのビデオを観る)

スペシャルオリンピックについて

ビデオをみてスペシャルオリンピックとは大会の名前ではなく、活動そのものの名称であるということをお分かりいただけたでしょうか。スペシャルオリンピックの使命は「知的障害のある人たちに年間を通してオリンピック競技種目に準じたさまざまなスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加するアスリートが健康を増進し、勇気を奮い、喜びを感じ家族や他のアスリート、そして地域の人々と技能や友情を分かち合う機会を継続的に提供する」ことです。知的障害の方の現実には養護学校などでも週1回しかスポーツをする機会がなかったり、社会にいればほとんどスポーツができないのが実情です。もっとスペシャルオリンピックの活動を活発化させたいのですが、その中で一番のネックはボランティアコーチが少ないことで、それは「知名度がないこと」「知的障害にしりごみすること」「アスリートとコミュニケーションがとりにくいというイメージが強いこと」が影響していると思われます。活動はメンバーシップ制(会員制)を採用していて、会員として登録することで活動に参加できます。スポーツとしての特徴としては、継続的なトレーニングの成果を発表する場を提供したり、能力を十分に発揮できるようにディビ

ジョンで分けて行います。(予選はクラス分けのためのものであり、予選に出た人は全員が決勝に参加できます)そして、頑張ったすべてのアスリートをたたえ全員を表彰するのです。私はスペシャルオリンピックスのスポーツは、障害者の自立を支援する手段だと思っています。現在みなさんの仲間にMさんという方が参加していることをご存じでしょうか。彼も、スペシャルオリンピックスのメンバーで、長年活動しています。今は、皆さんのお仲間としてサッカーやバスケのボランティアとしても活動しているのですが、彼にとってはいつもにこにことして参加することがひとつの使命になっているのです。

むすびとして

スポーツを考える際のヒントのひとつとして「スポーツでどのような社会となるか」と考えたとき、ひとつには「スポーツそのものを目的として行う」競技スポーツ、生涯スポーツがありますし、「手段としてのスポーツ」として、教育的な効果をめざす体育、スポーツ少年団の活動やスペシャルオリンピックス、リハビリとしてのスポーツなどがあり、目的にそったシステムをどのように提案するかが大切だと思います。いずれにしてもスポーツはもろ刃の剣であって使い方を誤れば人を傷つけてしまうこともある、ということをおまへ指導者やご家族への研修などを行うことが大切です。



【 文責 泉田 】